

修了生・卒業生代表謝辞

本日は、私たち修了生・卒業生のために、ここ佛教大学礼拝堂でこのように厳粛な式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、御多忙にもかかわらず、御臨席を賜りました諸先生方をはじめ、御来賓の皆様には修了生・卒業生271名を代表いたしまして心から御礼を申し上げます。

只今は田中学長の告辞をはじめ、御来賓の方からの御祝辞を賜り、私たち修了生・卒業生一同、身の引き締まる思いと、感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、5年前に、私が本学歴史学部の学生として歩み出したきっかけは、友人の勧めもあって、もう一度大学で学び直したいと思ったからです。と言いますのも、長年趣味としてきた歴史探訪も好事家の域を出るものではなく、また、三十有余年前の学生時代は学問にいそしむことなく不完全燃焼のまま暮れてしまったという悔いが残っていたからです。

本学での醍醐味はスクーリングでした。自らもかつての怠惰な学生時代では考えられなかったほど十分な予習をして臨みました。スクーリングでそれが裏切られるような思いをしたことは一度もありませんでした。先生方の御熱心な御講義、私たち学生への慈愛に満ちた御助言をいただき、学問としての歴史の世界にようやく近づくことができるともに、向学心が止まぬものとなりました。また、教科学習会では、歴史以外の仏教、民俗、福祉の御講義を受ける機会を得て、垣根を越えて学ぶことの喜びを知ることができました。

私にとって本学での華は学友会活動でした。4年前にはからずも長野支部長を引き受けることになりました。顔の見えない学友とのつながりは支部通信にあると考えて、毎月エッセイを1本発表することにしました。私にとっては道楽でしたが、楽しみにしてくれる学友もいて励みとなりました。また、二度にわたる善光寺での学習会の企画、関東ブロッ

クと連携して開催した諏訪大社での学習会など思い出深いものでした。さらに、長野支部の役員や鷹陵会の方々、関東ブロックの役員や全国の支部長の皆様と親しく触れ合うことができて大きな財産になりました。

学友会の活動を通じて知ったことは、さまざまな状況を抱えながら学んでいる学友がたくさんいるということでした。病気と格闘しながら学んでいる方、仕事や家庭の問題に押しつぶされそうになりながらも学びの道を歩んでいる方が少なからずいました。そのような学友と、年齢もこれまで肩書も別に、ともに学ぶ者として励まし合い、高め合ってきました。私たちを支えてくれた通信学生課の皆様にも深く感謝しています。

本学の修了・卒業で学びの道は終わるものではないと思います。これからも終生学び続けいくこと、そして本学で学んだことをいかに社会に恩返ししていくかが大切ではないでしょうか。

私が支部通信の第1回に執筆した折に、佐藤一斎の「言志四録」の一節を引用しました。「壮にして学べば老いて衰えず。老いて学べば死して朽ちず。」です。その思いを一層強くしています。また、本学を訪れる度にこの礼拝堂の前で、私は法然上人の言葉を噛みしめています。「智者のふるまいをせずしてただ一向に念佛すべし」です。自分一人の力で修了・卒業することができたのではありませんし、愚者である己を常に見据えていくことが社会に対する何よりの心構えだと思っています。

終わりに、私たちをお導きいただきました先生方、様々な場面で私たちを支えてくださった職員の皆様、学びの道に理解を示してくれた家族に感謝するとともに、この佛教大学の益々の発展を祈念いたしまして謝辞とさせていただきます。

平成30年3月25日

修了生・卒業生代表

歴史学部歴史学科

中澤 宏